

Q2. 腎臓が悪くなったのはどうしてでしょうか。

A.

腎臓の働きが悪くなる原因には多くの疾患（病気）や病態が考えられています。主な疾患としては慢性腎炎、糖尿病性腎症、のう胞腎、膠原病、妊娠腎後遺症などがあります。これらの疾患のために腎臓の働きが低下し十分に体の状態が保てなくなった状態を腎不全といいます。慢性の腎疾患が徐々に進行して腎不全になる場合を慢性腎不全といいます。

ちなみに透析療法を開始するに至った慢性腎不全の原因疾患の第1位は、数年前までは慢性（糸球体）腎炎でしたが、現在は糖尿病性腎症、慢性腎炎の順になっています。

さて、なぜ上記のような疾患で腎臓が悪くなるのかという質問に簡単に答えるのは難しいのですが、尿をつくる腎臓にはネフロンという機能単位が1つの腎臓に約100万個あります。1つのネフロンは1つの糸球体と、それにつながる1本の尿細管からなっています。糸球体はいわば毛細血管が糸くずを丸めたようになっており、そこで血液の中からいろいろな成分が濾しだされます（ろ過）。いわゆるフィルター役目です。それと尿細管は糸球体でろ過された成分を再吸収と分泌とって再度調整するところです。そこでつくられた尿が集まって尿管、膀胱、尿道を経て、尿として出ます。

慢性腎炎の多くは、長期にわたり本来は起こらないような免疫の反応がこの糸球体を中心として起こり、徐々に腎臓に変化が現れます。全ての慢性腎炎が腎不全に至るわけではありませんが、腎炎の中の一部では徐々に腎臓のろ過機能などが低下していくことで、腎不全の状態に進行していきます。

医師